

幼児のうたの

作曲について



小林つや江

幼児にどんな歌を与えたらよいであろうか、ということはその指導にあたっておられる先生がたや家庭のお母さんがたのなやみでありましょう。歌曲といえは、歌と曲との総合されたものですから、歌詞によくあつた曲がつけられてはじめてよい歌曲（しょうか）になるのであります。まず、

一、歌詞はどんなものがよいでしょう。

イ、あかるい心をうたったもの

ロ、たのしい気持をうたったもの

ハ、やさしい心をうたったもの

ニ、おもしろい題材をうたったもの

ホ、擬音をとり入れたもの

ヘ、動物をうたったもの

ト、植物をうたったもの

チ、自然現象をうたったもの

リ、あそびをうたったもの

ヌ、歌詞のみじかいもの

などで、幼児の日常生活から取材してもよろこばれます。

二、曲について

イ、歌詞がみじかいから自然に曲も短かい

ロ、うたいやすいもの

こえてきます。

一才〜二才頃になり
ますと、音域は一点イ
音から下方にひろがっ
て三度になります。す
なわち・イ・ト・ヘ
の三つの音が歌えるよ
うになります。すなわ
ちへ長調のドレミが歌
えることになります。

「どれみ」と歌える
ことはどんなにたのし
いでしょう。

つぎに「ドレミ」を
つかった歌曲をさがし
てみましょう。

これらのうたのうた
いはじめはみんな三度
ですから自分がうたえ
るような歌を先生やお

さ い た さ い た (ちゅうりっぷ)

ほら ほら ほ (ほと)

(で た で た) つ き が (おつきさま)

お て ー て (くつかなる)

母さんに歌ってもらえるのはこの上
もなくうれしいことでありましょう。

「かえるがなくからかえろ」や

「たこさんたこさん

りようてをあげて

たこさんたこさん

かたあしあげて

たこさんたこさん

まわれみぎ

たこさんたこさん

もういいよ」

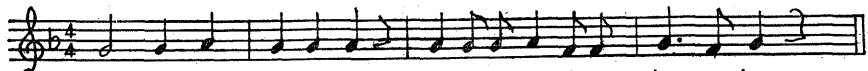
などのわらべうたは二度の音域であ
るから、ちょうどお話しているのに
リズムがつき拍子がついたので、ど
んな音域のせまい幼児にも歌えると
おもいます。
また三度の代表的なわらべうたで
ある

ゆうやけこやけ

あしたてんきになーれ

か える か な く から か え ろ

た こ さ ん た こ さ ん り よ う て を あ げ て
た こ さ ん た こ さ ん か た あ し あ げ て



ゆう や け こ や け あ した 天 き に な 一 れ

は四拍子で四小節のみじかい曲であります。

満三才になると三年保育のはじまる頃になります。「三つ子の魂百までも」ということわざがありますが、この頃のしつけはその人の一生を支配するといわれています。この頃から体も心も生長してきます。「語い」も豊富になり、平均二〇〇語ぐらひは話せるようになります。したがって歌唱生活も急に発達してなんでも歌いたくなり、ききたくなる時期です。知識欲がでてきます。なぜなぜとききたがるのもこの頃です。この時期の教育は家庭でも幼稚園でも保育園でもしっかりとした指導をしてやりたいものだと思います。三才〜五才までの音域は一音下つて四度（・ホ・イ）になります。この時期はちょうど幼稚園時代、保育園時代です。学校に上る前ですから家庭のお母さんもそのつもりで保育していただきたいと思ひます。お子さんによって音域はまちまちだと思ひますからどのくらいまで手ごろかをしらべてそ

のお子さんの声にあつた歌曲をえらんで指導して下されば理想的ですがややもすると音域のひろいものを与えて無理な発声をするために調子はずれになってしまうことがよくあります。調子がはずれるとすぐに「音痴」というかなしいレッテルを無雑作に与えますが、これはとんでもないことで、指導者が十分考えていかなければならないことであります。ほんとうの音痴というのは病的で、音の高低がつかないで、いつもねぶかのようにふしなうたうのをいいます。これは先天的なものと病的なものがありますからよくお医者さんに診察していただひてほしいとおもひます。

では四度でできている歌にはどんなのがあつてしょう。

わらべうた

○たけのこ一本おくれ まだめがでないよ

○かりうどさん かりうどさん

きようのえものはなんですか ズドーン

○あぶくたつた にえたつた

にえたかどうだかたべてみよ

まだにえない

○おおさむ こさむ

やまからこぞうがとんできた

なんといつてとんできた

さむいといってとんできた

○あがりめ さがりめ ぐるっとまわって ねこのめ

満六才になると幼稚園や保育園の最後の年でありますから身心ともに生長してきます。したがって音域も下に一音ひろがって・ニ・イの五度になります。五度になりますと

○ちょうちょ (ちょうちょ ちょうちょ なのはにとまれ)

○ぶんぶんぶん (ぶんぶんぶん はちがとぶ)

○ぶたちゃん (ぶうぶうぶたちゃん なにいつてるの)

○ほたるこい (わらべうた)

○おみやげ三つたこ三つ (わらべうた)

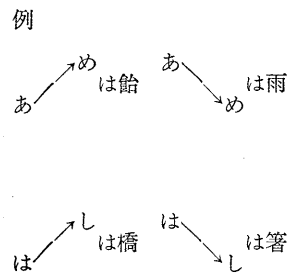
○だるまさんだるまさん (わらべうた)

○ころころ (わらべうた)

などがあります。

みなさんに曲をつくるヒントをといる編集からのお願いが大分脱線してしまいました。これからかんとんに要点をお話ししましょう。

まず歌詞を撰択したならば、何回も何回もよむことです。暗記でききるまでくりかえしてよんでいるうちに、自然にことばのもつリズムが発見されるでしょう。リズムが発見できますと、こんどは、ことばのアクセントにきをつけてみます。これは関東と関西とはアクセントが反対になるのが多いですが、ここでは標準語のアクセント



トで考えてみましょう。

上図のように同じことばでもアクセントが違つと、全然意味が違つてきますね。

アクセントがわかつたならば、不自然にならないように、はじめは、ね子か節

でもかまいませんから、声をだして歌つてみます。そして音域を考えて五線にかいてみます。そしてピアノかオルガンでひいてみます。悪いところは直してまたうたつてみます。

また子どもにおしえてみて歌いにくいところがあればそれを訂正してみましょう。

しばらくしてまたその曲をみるとぐあいの悪いところができますから、またなおして歌つてみます。有名な作曲家の先生のお話ですが、一つ歌詞に三六回もつくりかえしたとうかがった時は頭が下りました。作曲家がどんなにそのものに精神をうちこんでいるかがおわかりになると思います。

な

ぶたちゃん

に

いっ てる

の

ブー ブー ブー

ぶーぶーぶたちゃん

なにいつてるの

これは戸倉ハル先生の作詞です。これを聞いたいた時まず、ぶたちゃん
のなき声をそうぞうしました。ぶーぶー

そのぶーのこえの中には赤ちゃんぶたがお母さんにあまえている声、おっぱいをのみたいというきもち、おねむになったとうったえている様子など想像しました。

「ぶーぶーぶたちゃんなにいつてるの」と何回もくり返しロずさんでみました。この歌の中の山は「なに」の「な」にあります。それで上のよ

な に いっ て る の

♩ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪

ブー ブー ぶたちゃん ぶたちゃん

♩ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪

うな旋律ができました。

拍子は二拍子で四小節になりました。音域は五度でリズムはたのしいたたたんで

たたん たたん たたん たたん

♩ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪

と自然になりました。

ふたちゃん

あいらしく



ふーぶー ふたちゃん なにいっ てるの

ができました。
伴奏にはぶたのなき
声をいれてあそんでい
るようすを出しまし
た。
とにかくよいことば
をさがすことですね。
そしてそれを情熱を
もって作曲してごらん
になったら、きっとよ
い曲が生まれてくると
思います。

ふたちゃん

あいらしく ♩ = 88

